

開講年次・時期	1年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義(一部演習)	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----------	-----	-----

科目名	暮らしと地域	担当者名	高橋 興
授業の概要	青森という地域社会の実像について、授業担当者のコーディネートにより学外から多彩な講師を招いて話を聞き、政治・けいざい、文化など様々な語り口から学び、考える。 また、講師の話を一方的に聞くだけでなく、ほぼ毎時間修了後にミニレポートを作成して提出すると智に、節目ではグループ討議なども組み入れる。 すなわち、地域について他人の話を聞いて学び考えとともに、「(自分の感想・考え)各」、「(自分の感想や意見を)発表するなどの確かな能力の育成を目指すものである。		
科目の到達目標	青森という地域社会にしっかりと目を向け、多彩な講師から地域の様々な姿について学ぶことをきっかけとして、自らと地域社会との関わりについて考え、それを整理して書き、発表することができるようになる。		
授業時間外学修(予習・復習)	現時点では特に計画していない。		
フィードバックの方法			
単位認定の要件			
評価の方法・割合(%)	通常の授業時に提出を求めるレポート(30%)、考査として作成提出する小論文(50%)を基本として、総合的に評価する。		
履修上の注意事項	地域での様々な出来事に関心を持ち、新聞をできるだけ毎日読むようにして欲しい。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/12		<p>テーマ「ガイダンス」・「地域について学び考える必要性」(高橋)</p> <p>次回以降14回の講義内容の説明と、地域について学ぶことの意義について確認する。</p> <p>予習は特に必要なし。</p> <p>復習は配布されたレジュメをもとに、地域について学ぶことの意義と必要性について再確認することである。</p>	
2	4/19		<p>高橋による通常スタイルの講義</p> <p>概論「今、自分にとっての地域と暮らし」を考える①</p> <p>第4回から始まる外部講師による講義に先立ち、高橋がこれまで研究テーマとして取り組んできた中から、今日的な課題に関わるとされる2つを選んで講義し、皆さんと一緒に考える。</p> <p>今年は、4年に一度の統一地方選挙の年であり、青森県では6月に県知事・青森市長選挙等が行われることになっています。</p> <p>それに合わせ、地域の暮らしに深く関わる政治と選挙～いわゆる(津軽選挙)など負の歴史から、18歳有権者制の意義などを考える～」のテーマで学習します。</p> <p>(予習)は「青森県」「選挙違反」「つがる選挙」でネット検索をしてみよう。それ以外のことは特に必要としない。</p> <p>(復習)として、予習していなかった人は、あらためて前述した予習の内容に取り組んでみよう。</p>	
3	4/26		<p>高橋による通常スタイルの講義</p> <p>概論「今、自分にとっての地域と暮らし」を考える</p> <p>本時のテーマは、「県人口の減少が続く中で、小中学校及び県立高校の再編統廃合が地域社会に及ぼす影響を考える」</p> <p>(予習)は「青森県教育庁」のホームページ等にアクセスし、青森県における、ここ十数年間の学校数の減少の状況等について確認してみよう。</p> <p>(復習)として、自分の出身地など状況がわかる地域にある学校がなくなった場合のことを、具体的にシミュレーションしてみよう。例えば、どんな交通機関を利用して、どここの高等学校に通学する(できる)ことになるのか、その場合に部活動などが十分できるのか、通学費用はどれくらいかなど。</p>	

4	5/10	<p>第1回公開講義「ことばで遊ぶ ことばに遊んでもらう」</p> <p>津軽弁の日の会代表の、伊奈かつぺい氏による講義を聴く。その後、高橋の司会による質疑応答。 (予習)としては、おもしろい津軽弁、わかりにくい津軽弁、味わいのある津軽弁などを整理し書き出してみよう。 県外出身者は図書館資料やインターネットを活用して、津軽弁のことを少しでも学んでおいてほしい。そうすれば、講義がいろいろ楽しめる。</p> <p>(復習)として、伊奈さんが皆さんに最も伝えたかったこと、皆さんが講義を聴いて心に残ったことを400字程度で書いてみよう。</p>
5	5/17	<p>第2回公開講義「津軽三味線の魅力」</p> <p>津軽三味線は青森県の伝統的な芸能の一つである。 かつて全国的に活躍した三味線奏者、山田千里氏の指導を受けた代表的な弟子とされる三味線奏者・渋谷和生氏の生演奏と、三味線にまつわる話を聞く。 (予習)図書館を活用するなどして、故人だが青森県を代表する三味線奏者として著名な前記の山田千里や高橋竹山(ちくざん)のことなどを調べてみよう。</p> <p>(復習)渋谷氏が演奏の合間に話した津軽三味線に関する様々なことを整理してみよう。</p>
6	5/24	<p>第3回公開講義「北前船が運んだ越前笏谷石(しゃくたにいし)」</p> <p>全国北前船研究会会員・三浦順一郎氏による講義を聴きながら、下北地方の歴史について学ぶ。</p> <p>(予習)図書館の資料やインターネットの活用等により、北前船や笏谷石のことを調べてみよう。 (復習)下北地方における北前船の存在意義を考え、まとめてみよう。</p>
7	5/31	<p>グループワーク①(公開講義①から③までを中心とした振り返り)</p> <p>予め編成したグループに分かれる～ ①まず、各人が作成したメモをもとにしながら、これまでの3人の中で誰の講演や演奏が最も印象的であったかについて発表し、ディスカッションを行う。 単に「おもしろかった」「心に残った」だけでなく、「どこが?なぜ?」おもしろかったのか、心に残ったかをきちんと語れるようにしたい。 －50分－</p> <p>②各グループの代表が、グループの意見交換で交わされた内容の要点を発表 －30分－</p> <p>③各グループ代表の発表を聞いたうえで、本授業者がコメントし、まとめる。 －10分－</p> <p>(予習)前時に指示したメモの作成をしっかりと行うこと。 (復習)は、各グループ代表の報告と自グループの意見の相違や類似点、その背景や理由などについて整理してみよう。</p>
8	6/7	<p>第4回公開講義「ウクライナ・台湾問題とアオモリ②」</p> <p>青森県には陸・海・空の自衛隊と米軍(三沢)の基地があり、我が国の防衛上極めて重要な位置づけを与えられています。また、かねてよりの台湾問題に加え、昨年からはロシアのウクライナ侵攻などもあり、防衛問題への関心が高まっている。</p> <p>そうした状況の中で、安保問題の専門家として全国的にも評価の高い東奥日報編集局編集委員の齊藤光政氏の講演を聴き、青森県がおかれている状況について学び、考える。</p> <p>予習としては、本学等の図書館資料や、インターネットの活用等により、本県の各地に配置された自衛隊基地及び米軍基地の状況について確認しよう。</p> <p>復習としては、講演から学んだことを改めて整理・確認するとともに、地震をはじめとする様々な災害が多い我が国における自衛隊の役割も併せて考えよう。</p>
9	6/14	<p>第5回公開講義「ドローンが変わる ドローンで変わる」</p> <p>ドローンは今、民事利用から軍事転用まで様々な分野(形)で活用され、注目されている。株式会社大坂組ドローン事業開発部長・徳差毅氏の講義を聴き、ドローンのイロハから学び、今後の活用や発展の可能性、問題点について考える。</p> <p>予習は特に必要なし。</p> <p>復習は、講義の内容、特に今後の可能性に関する部分について、ミニレポートを作成し提出することを求める。</p>

10	6/21	<p>第6回公開講義 元青森テレビ(ATV)アナウンサーで、退社後に起業して現在、あおり藍の栽培と販売の会社社長を務める福士珠美氏を招き、「テレビの仕事からあおり藍を広める仕事へのチェンジ&チャレンジ」と題する講義を聴く。そのうえで起業することの素晴らしさと困難さ、あおり藍の魅力、しかし商品として販売することの難しさなどについて考える。</p> <p>(予習)藍は、青森市が力を入れている「野菜」だという。インターネット等の活用で、「藍」がどんなもので、その用途はどのようになっているのか、加工販売等を行った場合の価格等について調べてみよう。 (復習)講師は恐らく起業の難しさ等について話されると思われる。起業することについて、改めて考え、自分の考えをまとめてみよう。</p>	
11	6/28	<p>グループワーク②(公開講義④～⑥までを中心とした振り返り)</p> <p>予め編成したグループに分かれる～</p> <p>①まず、各人が作成したメモをもとにしながら、これまでの3人の中で誰の講演や演奏が最も印象的であったかについて発表し、ディスカッションを行う。</p> <p>「ウクライナ・台湾問題とアオモリ②」や「起業の魅力と困難さ」などにマトを絞って議論してみよう。 あえて注意を喚起しておきたいことは、安保問題に関して議論するときは、決して特定の立場に立つのではなく、広い視点から事態を把握し、議論することを基本的な姿勢とすること。</p> <p>—50分— ②各グループの代表が、グループの意見交換で交わされた内容の要点を発表 —30分— ③各グループの発表を聞いたうえで、本授業者がコメントし、まとめる。 —10分—</p> <p>(予習)前時に指示したメモの作成をしっかり行うこと。 (復習)は、各グループ代表の報告と自グループの意見の相違や類似点、その背景や理由などについて考え、整理してみよう。(ミニミニレポート作成)</p>	
12	7/5	<p>第7回公開講義 南部町教育委員会社会教育課史跡対策室総括主査・布施和洋氏をお招きし、数年前から発掘作業をし、相次いで注目すべき遺物・遺跡が発掘されている聖寿寺館に関連して「聖寿寺館から辛酸のへ城へー戦国大名南部氏の本拠地移転ー」と題する講義を聴講する。</p> <p>(予習・復習) この遺跡については既に様々な発表・報告がなされており、ウェブ常でも多くの情報に接することができる。積極的にアクセスし事前・事後の学習に積極的に取り組んで欲しい。</p>	
13	7/12	<p>第8回公開講義 青森県立美術館美術統括監の池田亨氏をお招きし、本年生誕120年を迎えた青森市出身で文化勲章を受章した版画家・棟方志功に関する講義を聴講する。 (予習・復習)棟方については、図書館や棟方志功美術館等に様々な作品等が多くある。そうした関連資料に積極的にふれるようにして欲しい。</p>	
14	7/19	<p>第9回公開講座 ねぶた本番が近づいたこの時期、第5代ねぶた名人の千葉作龍氏をお招きし、「庶民の祭から観光事業へ」と題する講演を聴講する。</p> <p>予習としては、図書館やウェブ情報を活用しながら、ねぶた発祥の歴史や変化、経済的な効果等について整理してみよう。また、講師・千葉作龍氏がこれまで製作されたねぶたの写真等を探してみよう。</p> <p>復習としては、演題の一部でもあるねぶたの観光事業としての側面について調べ、考えをまとめてみよう。</p>	
15	7/26	<p>まとめ(考査)</p> <p>「全8回の公開講義を聴き、今改めて『暮らしと地域』の充実と発展について私が考えることを書く」(小論文作成) 授業時間内に1000字以上1200字以下で作成し、授業の終わりに提出する。(後日提出は不可) 必ず事前に下書きやメモを作成しておかなければ時間内に合格点に達する小論文を作成することができる人は少ないものと思われる。ただし、そうしたメモ等は、考査時に持ち込むことは不可とする。</p>	
期末試験			
使用テキスト	なし。		
参考文献 参考URL	授業の進行に合わせて随時紹介します。		
備考			

開講年次・時期	1年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	自然の生態系	担当者名	佐藤敬
授業の概要	青森県・日本・世界にある様々な生態系を概観し、特に青森県の生態的な特徴を紹介する。また人間と身近な環境、野生生物との関わりを説明する。さらに地球規模での生態系システムの捉え方や生物多様性保全の意味を考えてもらう。		
科目の到達目標	①青森県、日本・世界にある様々な生態系を比較し、青森県の身近な生態系の特徴を説明できる。 ②人間の野生生物、生態系のかかわりを理解し、説明できる。 ③地球規模での生態系システムの捉え方や生物多様性保全の意味を考えてもらう。		
授業時間外学修(予習・復習)	反転授業。事前に公表するオンデマンド教材を視聴する。予め予告の上、視聴確認のための小テストなどを実施する場合がある。		
フィードバックの方法	期末試験終了後模範解答をteamsに掲載するので、どこが正解し、どこが間違っていたのかを必ず確認して理解を深めること。		
単位認定の要件	個々の授業における事前学習確認のための課題と、期末試験を通して到達目標を中心に理解度を問う		
評価の方法・割合(%)	期末試験 80%、授業中に実施する事前学習確認のための課題 20%		
履修上の注意事項	身の回りの自然、生物に興味を持ち、目を向けるよう日常的に心がけてください。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		テーマ:「イントロダクション」 授業内容:生態学とは。生態学と環境科学。環境主義の関係 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
2	4/13		テーマ:生態学と生物学 授業内容:生態学の基礎として重要な生物学を再検討する 学予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
3	4/20		テーマ:生物地理学 授業内容:世界の自然環境と生態系 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
4	4/27		テーマ:日本の生物地理学 授業内容:日本の自然と生態系の特徴 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
5	5/11		テーマ:青森県の生物地理学 授業内容:青森県の自然と生態系の特徴 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
6	5/18		テーマ:生物界の多様性 授業内容:生物に共通の基本的特徴と生物の多様性 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を自重し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	

7	5/25	<p>テーマ:エコシステム</p> <p>授業内容:生態系の構造と機能</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
8	6/1	<p>テーマ:進化から見た生態系</p> <p>授業内容:生物の個体適応と進化の関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
9	6/8	<p>テーマ:生物の適応と進化(1)</p> <p>授業内容:生物の個体適応と進化との関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
10	6/15	<p>テーマ:生物の適応と進化(2)</p> <p>授業内容:生物間相互作用と生態系</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
11	6/22	<p>テーマ:エネルギーと生態系</p> <p>授業内容:エネルギー需給と生態系との関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
12	6/29	<p>テーマ:動物の行動</p> <p>授業内容:動物の行動と生態系との関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
13	7/6	<p>テーマ:生物の個体数</p> <p>授業内容:生物の個体数の変動要因</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
14	7/13	<p>テーマ:地球環境と生態系の保全</p> <p>授業内容:生態系の人為的变化と気候変動の影響</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
15	7/20	<p>テーマ:生態系の保全を考える</p> <p>授業内容:生態系保全の方法</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
期末試験		期末試験において到達目標を中心に理解度を問う	
使用テキスト		なし	
参考文献 参考URL		原登志彦(監修)「大学生のための生態学入門」共立出版	
備考			

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	現代社会の諸相	担当者名	オムニバス
授業の概要	<p>「現代社会の諸相」では、本学のそれぞれ異なる専門領域を持つ教員が、各自の専門領域から社会における様々な事象・問題についてオムニバス形式の講義を行います。</p> <p>現代の社会は高度に専門化しており、そのような社会において大学で修学している皆さんにも、これからより行動に専門的な知識や技能が求められることとなります。もっとも、専門的な知識や技能を広く身につけることは容易ではなく、ある程度方向性を定めている人もいれば、まだ定められていない人もいるかと思えます。</p> <p>本講義では、青森に関連するテーマから社会一般に関連するテーマまで幅広く取り扱いますので、まだ自身が目指す方向性が定まっていない人は、今後の方向性を探るため、また、既に方向性が定まっている人はその方向性を多角的に考えるための景気としてもらいたいと思います。</p>		
科目の到達目標			
授業時間外学修(予習・復習)	なし		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	各担当教員による課題(出題方法、評価基準は各々異なる)		
評価の方法・割合(%)	第1回の出席点(2点)、第2回～第15回の各回の得点(各回7点)の合計点(100点満点)で評価。		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・課題は期限厳守で提出してください。 ・授業中は携帯電話、スマートフォンをかばんの中に入れてください。 ・配布物はファイルなどに入れ、なくさないように管理してください。 		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		<p>イントロダクション (概要)授業計画・概要、評価の方法・ルールなどについて概説します。</p>	
2	4/13		<p>テーマ:大学生の就職活動のモチベーション 担当:楠奥繁則 (概要) 卒業後に充実した職業人生を歩むために、大学生の多くが在学中に就職活動を行う。しかし、約3人に1人の大学生が「自分の適性にあった職業を選べるか」に対して不安を感じている(一般社団法人日本私立大学連盟 2022)。この不安は大学生の就職活動のモチベーションに負の影響を及ぼす。では、この不安を克服し、就職活動のモチベーションを高めるにはどうすればよいのだろうか。この講義では、授業者の研究によって示された方法を2つ紹介する。</p>	
3	4/20		<p>テーマ:動物の飼い主・管理者に対する責任 担当:菅沢大輔 (概要) 事件①:ミニチュアダックスフンドの散歩中に、その子犬をつないでいるリードが切れてしまいました。自由になった、その子犬は、近くにいた通行人のおばあさんの方に、勢いよく駆け出していきました。おばあさんは、その子犬に驚き、その子犬をよけようとして、おばあさんは、腰を骨折してしまいました。</p> <p>事件②:動物園で、檻からライオンが逃げ出して、来園者を襲撃してしまいました。</p> <p>この2つの事件で、問題の子犬の飼い主や動物園の経営者は、民法上の責任を負うのか?それとも負わないのか?こういった問題について一緒に考えて行きましょう。</p>	
4	4/27		<p>テーマ:政策学入門「課題解決」っていったいなに? 担当:山谷清秀 (概要) 大学教育でも、社会人基礎力でも必要だといわれるものに「問題発見・課題解決」の能力がある。実はこれは、政策学という学問の対象そのものである。なぜそれが問題になったのか、誰が問題だといっているのか、その問題には誰がかかわっているのか、だれがどのような方法で解決すべきか。これらの点を考えたり、現実の政策をこれらの点から分析するのが、政策学の醍醐味である。政策学のおもしろさをご案内しよう。</p>	
5	5/11		<p>テーマ:感染症、戦争、そして青森 担当:楠山大暁 (概要) 人類の歴史は、感染症と戦争の災禍を乗り越える歴史であるとも言える。2020年頃より現在に至るまで、私たちはまさにこれらの災禍に見舞われている。本講義では、なぜ人類社会においてパンデミックが発生するのか、そしてパンデミックと戦争が社会経済に及ぼす影響を明らかにする。</p>	

6	5/18	<p>テーマ:同性婚についての憲法上の論点 担当:村山美樹 (概要) 本講義では、近似世間において広く議論されている同性婚の導入について、憲法上どのような議論が行われているか明らかにする。具体的内容としては、①現在の民法上の規定、憲法上の規定を参照し、それらについての学説の解釈を明らかにしたうえで、②近時の地方裁判所の判断を吟味していく。講義はおもに教員の作成したレジュメをもとに進めていくが、受講生にはポケット六法を用意して欲しい。</p>	
7	5/25	<p>テーマ:Society5.0実現に向けたICTの展望 担当:木村隆雄 (概要) Society5.0とは、内閣府が目指すべき未来社会として提示しているもので、人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術を用い、仮想空間と現実空間を融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会のことである。 この実現に向けたICTの動向を紹介する。</p>	
8	6/1	<p>テーマ:XRとメタバース 担当:新免圭介 (概要) XR(クロスリアリティ)は近年、様々な技術出るVR(仮想現実)、AR(拡張現実)・MR(複合現実)・SR(代替現実)など、現実社会と仮想世界を融合して、新しい体験を作り出すIT技術の総称である。 また、Metaに社名変更した旧Facebookに代表されるように、メタバースという言葉が昨今耳にするようになったが、メタバースは、インターネット上のバーチャル空間で、ユーザ同士が交流・仕事・遊んだり様々なコミュニケーションを楽しむ場所である。仮想空間を活用するため、XRと混同しがちだが、あくまでもメタバースは「場所」を表す広く考えれば、任天堂の「あつまれ動物の森」やEpic Gamesの「Fortnite(フォートナイト)」といったゲームも広い意味でメタバースと捉えられる場合がある。この授業では、XRの歴史と、メタバースの実例を扱うこととする。</p>	
9	6/8	<p>テーマ:コンビニの食品は行き問題とロスチャージ会計 担当:寺澤智広 (概要) コンビニは私たちの生活に欠かせない存在です。そんな便利なコンビニですが、実は1店舗あたり約15キロの食品廃棄が毎日出ています。食品はイキが出る原因は様々ですが、その一つにコンビニの独特な会計方式が関わっています。本講義では、「会計=お金の計算」が食品廃棄を生み出しているとは?という疑問を一緒に考えて行きます。</p>	
10	6/15	<p>テーマ:ポジティブな生き方の探究 担当:グエン・チ・ギア (概要) 生活、就職活動や社会人生活など様々な現場において一般的には不利だと思われる制約状況はよく発生する。これらの状況をいかに乗り越え、効果的に活動することができるのかという疑問点に関して本講義では最新の経営学やポジティブ心理学の研究成果をわかりやすく説明し、学生と一緒に考えて行く。</p>	
11	6/22	<p>テーマ:異文化としての日本 担当:藤森啓森 (概要) 異文化を無条件に受け入れるべきか グローバル化の時代、多国籍、多文化という環境の中で何をどのようにすべきか。異なる文化のいかなる状況にも適応できるようにしたい。 近年、日本の大都会に限らず、地方でも多くの外国人を見かけるのはごく普通のことである。彼らの姿、言葉はすでに日常的風景の一部となっているといっても過言ではない。そこでどのように外国人と接触するかは重要な課題である。日本人が異文化の背景を持つ外国人と接触する場合、概ねその対応は二つに分かれる用である。それは、相手の文化や価値観を完全に拒否するか、あるいは無条件に受け入れるか、その受け方は往々にして両極端になるケースが多いように思う。我々が異文化を学ぶその目的は、あくまで相手の理解を深めるためのものであり、決して安易に自分自身の価値観や考え方を捨てて、相手に迎合したり、ひたすら「相手の矛を用いて相手の盾を攻める」ということであってはいけない。</p>	
12	6/29	<p>テーマ:日本自動車企業はなぜ反トラスト法(独禁法)に違反するのか 担当:井原孝延 (概要) アメリカ司法省(DOJ)は日本企業にも反トラスト法(独禁法)を厳しく適用する。日本企業の談合(Collusion)がアメリカ消費者に被害を及ぼすというロジックである。2021年7月現在、反トラスト法違反で罰金\$10M以上の日本企業は64社。全体の40%である。日本企業、日本人は何をどうすべきか考慮したい。</p>	
13	7/6	<p>テーマ:著作権法の「使われ方」 担当:園部正人 (概要) 知的財産権と総称される各種の権利のうち、著作権は登録手続きを経ずに発生するという点でとりわけ身近な権利であると言える。教員である我々も、受講者の皆さんも、日々著作物を創作し、著作権者になっているのである。 この講義では、弁護士会に提出した「懲戒請求書」をインターネット上に公開する行為が著作権・職者人格権の侵害となるかが争われた近時の裁判例を紹介したうえで、裁判所の判断の可否と、著作権制度のあり方を皆さんと考えて見たい。</p>	

14	7/13	<p>テーマ:青森におけるアートツーリズムの動向 担当:内山清 (概要) 講義内容としては、以下の項目について言及していく予定です。 ①ニューツーリズムとしてのアートツーリズム ②アートツーリズムの概念と広がり ③国内外におけるアートツーリズムの動向 ④青森県におけるアートツーリズムの展開 ⑤今後のアートツーリズムの可能性</p>	
15	7/20	<p>テーマ:科学技術と人間の未来～ChatGPTの衝撃～ 担当:鈴木克成 (概要) 加速度的に進展する科学技術～AI,ロボット/サイボーグ技術、脳科学、生命科学等の発達は、人間と社会に何をもたらすのか？ その意味、問題、可能性についてともに考察します。</p>	
期末試験		なし	

使用テキスト	なし
参考文献 参考URL	各教員より適宜紹介する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・課題は期限厳守で提出してください。 ・授業中は携帯電話、スマートフォンをかばんの中にしまってください。 ・配布物はファイルなどに入れ、失くさないように管理してください。

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	防災と危機管理	担当者名	大泉 常長
授業の概要	本講座は、地域社会の安全・安心を守るためのリスク・危機管理講座です。地域社会や企業社会における様々な不測事態に対応するための適切な計画と訓練を通して、危機を未然に防止する【危機対応能力】、もしくは、危機的状況をコントロールできる能力を身につけるための戦略的危機管理について、豊富な事例を通して研究すると共に、具体的な対応術の習得を目的とします。特に本講座では、「日本防災士機構」が認証する「防災士」の資格取得を視野に入れているため学生諸君には地域消防署、日本赤十字社などが主催する「救命救急実技講習」を受講してもらう事になります。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理」のメカニズムについて理解する。 ・危機管理の基本的メカニズムをもとに、地震の危機対応能力を高め、地震などの災害発生時には、地域防災に進んで参加できるリーダー的存在を目指す。 		
授業時間外学修(予習・復習)	特に予定はしていないが、「防災士」の資格取得を考えている者には、別途救命救急講習及び講習会への参加(有料)が義務づけられている。		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	期末試験及び毎回の講義で課される課題への回答		
評価の方法・割合(%)	期末試験(50%)および毎回の講義で課される課題(50%)への回答		
履修上の注意事項	日頃から防災(減災)などに興味を持ち、危機管理に興味を持った学生諸君の受講をお待ちしています。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/6		(テーマ)防災と危機管理について (授業内容)今後講義内で展開する講義内容について説明します。 (予習の内容および方法)「危機管理」の意味をインターネット等を通じて調べてみる。(60分) (復習の内容および方法)危機管理の基本的概念について講義内容のノートやメモを見返すこと(60分)	
2	4/13		(テーマ)危機管理とは何か (授業内容)我々の実生活や様々な組織に求められる「危機管理」の定義とメカニズムについて学ぶ。 (予習の内容および方法)インターネットを通じて「危機管理」という言葉がどのような場面で使われているかを調べてみる。(60分) (復習の内容および方法)危機管理の定義について講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)	
3	4/20		(テーマ)日本における危機管理 (授業内容)われわれの国日本は、文化的・歴史的様々な背景を元に危機意識が欠如している。日本人がそうした感覚を備えるためには何が必要か。「ムラ社会」「自然観」などから形成される我々の弱点について学ぶ。 (予習の内容および方法)日本で発生した「地下鉄サリン事件」について調べてみる。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)	
4	4/27		(テーマ)事例から学ぶ危機管理 「阪神淡路大震災」「東日本大震災」 (授業内容)「危機管理」において重要なのは、過去の教訓から多くを学ぶことです。しかしながら、多くの日本人は熱しやすく冷めやすい性格を備えているため、欧米人に比べその足跡を忘却する傾向にあります。この会では、日本で発生した大災害について県証紙、今後の日本社会に求められる危機管理体制について考えます。 (予習の内容および方法)「阪神淡路大震災」「東日本大震災」における被害とその特徴について調べる。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)	
5	5/11		(テーマ)自然災害と防災 (授業内容)日本は、地震、台風、津波、火山噴火など様々な自然災害が発生する。世界でも極めてまれな国として知られる。しかしながら、多くの国民は自然災害に対する知識は限定されており、ここに対する準備が不十分であるという現実がある。講義では、これらの自然災害の特徴に触れ、われわれを取り巻く、自然について考える機会とする。 (予習の内容および方法)近年発生した地震、豪雨災害などの自然災害についてインターネットなどで調べてみる。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートや配付資料を見返すこと。(60分)	
6	5/18		(テーマ)過去の自然災害からの教訓① (授業内容)実際に発生した自然災害を例に、どのような問題を抱えていたのかについて、受講生各自が再発防止あるいは防災について考える機会としたい。 (予習の内容および方法)インターネットなどを活用し、様々な自然災害について調べてみる。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートや配付資料読み返すこと。(60分)	

7	5/25	(テーマ)過去の自然災害からの教訓② (授業内容)実際に発生した自然災害を例に、どのような問題を抱えていたのかについて、受講生各自が再発防止あるいは防災について考える機会としたい。 (予習の内容および方法)インターネットなどを活用し、様々な自然災害について調べてみる。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートやメモを読み返すこと。(60分)	
8	6/1	(テーマ)自然災害と訓練 (授業内容)防災訓練とは何のために行うのか?現状として、全国の学校等で行われている訓練を検証しながら、本来あるべき訓練の姿について考える。 (予習の内容および方法)自身も体験してきた数々の防災訓練などを振り返り、「その意味」について考える。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートやメモを読み返すこと。(60分)	
9	6/8	(テーマ)危機管理とリーダーシップ① 経営リーダーのリスク感性と危機意識 (授業内容)危機対応におけるリーダーの立場について考える。実際は多くのリーダー達は、危機対応に十分な能力を身につけていない現状などを解説する。 (予習の内容および方法)テキスト第1章に目を通すこと。(60分) (復習の内容および方法)テキスト第1章を熟読する。(60分)	
10	6/15	(テーマ)危機管理とリーダーシップ② 危機発生後の「初動対応」 (授業内容)組織を例に危機対応におけるリーダーシップについて考える。企業などのリーダーには機器対応に際し、どのような能力が求められ得るのか、こうした事例から地域防災におけるリーダーの資質について考えたい。 (予習の内容および方法)テキスト第2章に目を通すこと。(60分) (復習の内容および方法)テキスト第2章を熟読。(60分)	
11	6/22	(テーマ)危機管理とリーダーシップ③ リスク管理と危機管理 (授業内容)リーダーに必要な危機管理とその段階について解説する。 (予習の内容および方法)テキスト第3章に目を通すこと。(60分) (復習の内容および方法)テキスト第3章を熟読。(60分)	
12	6/29	(テーマ)学校の危機管理 (授業内容)近年、いじめや自然災害など、学校経営における様々な事件・事故が影響し、児童・生徒が命を落とすケースが増えている。ここでは、実際に発生した様々な問題を事例として扱い、学校組織における危機管理のあり方、防災教育や防災訓練のあり方について検討する。 (予習の内容および方法)近年学校組織において発生している事件・事故などについて調べてみる。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)	
13	7/6	(テーマ)事例から学ぶ危機管理～グローバル企業の失敗に学ぶ (授業内容)危機管理が十分でない日本企業においては事故や不祥事が絶えず発生している。またその際の不十分な対応が社会の不信感を生み、次のリスクへと発展している。この講義では、リスク管理を怠った企業の失敗事例をもとに組織的な危機管理やリーダーシップなどの重要性について考える。 (予習の内容および方法)テキスト第6章に目を通すこと。(60分) (復習の内容および方法)テキスト第6章を熟読する。(60分)	
14	7/13	(テーマ)改めて危機管理について考える (授業内容)様々な事例を通し、危機管理に触れてきたことにより、序盤に耳にした危機管理について新たな認識を備えたことと思う。この回では、改めて危機管理のメカニズムについて触れるとともに、危機意識の向上具合を自己評価してもらうことを目的とする。講義後半では、これまでの講義を振り返り、本国の危機管理に関する課題について、グループディスカッションを行ってもらう。 (予習の内容および方法)これまで講義で扱った内容について各自振り返ってみることを薦める。(60分) (復習の内容および方法)講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)	
15	7/20	(テーマ)結論 (授業内容)これまで14回の講義で取り扱った内容を振り返る。重要なことは、危機を予知し、それに対する備えをすることである。少なくとも、本国で発生し得る自然災害は予測可能で、これに対する備えをすることは決して難しくはない。受講生はこうした現実を目に向け、今後、自分達ができる危機への対応について考える機会となる。 (予習の内容および方法)これまでの講義を振り返る。(60分) (復習の内容および方法)講義内で伝えた重要事項についてノートや資料にしっかりと纏めること。(60分)	
期末試験			
使用テキスト	大泉常長「日本人リーダーは、なぜ危機管理に失敗するのか」晃洋書房		
参考文献 参考URL			
備考			

開講年次・時期		授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	--	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	新事業構築論	担当者名	中村 陽一
授業の概要	アフター(ウィズ)コロナの社会デザインとしての事業構築の考え方と方法論および事例を学び、今後新事業構築を考え、具体化していくための基礎を形成する。		
科目の到達目標	本科目は、担当教員が一貫して追及してきた社会デザイン(学)の思想的・学問的含意から実践的な社会技術としてのありようまで分野・領域横断的に提示し、とりわけ新事業構築(特にコミュニティビジネス/ソーシャルビジネス)の見取り図を描こうとするものである。受講者自ら当事者意識を持った新事業構築に取り組むことをめざしたい。		
授業時間外学修(予習・復習)	受講者の希望を見たとうえで、任意の自由参加による「自主ゼミ」を行うことがある(新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ慎重に判断する)		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	授業内容の基本的理解および受講者自身のリサーチクエストの設定		
評価の方法・割合(%)	リアクションペーパーによるミニレポート:70% 受講姿勢:30%		
履修上の注意事項	社会的・地域的な課題についての自らの関心を掘り下げ、多少なりとも言語化しておいてほしい。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			イントロダクション ワーク&ライフのソーシャル・イノベーションとしての新事業構築へ向けて～R・ライシュ教授「貧富論」講義から	
2			社会課題と社会デザイン 世界と社会の課題とは? 社会デザインとは?	
3			社会デザイン最前線～理論と方法 社会デザインの3つの次元、イノベーション、社会デザインとアート、デジタル産業主義とデジタル分散主義、ウェルビーイング・エコノミーなど	
4			小括1:社会デザインとは ここまでの整理と討議	
5			ワーク&ライフのソーシャル・イノベーションとしての新規事業構築へ向けて 社会状況の中でのパラレルキャリア、背景一起こっていること、サードプレイスと実践事例、社会デザインの方向性と可能性、あらためてパラレル	
6			アフター(ウィズ)コロナの新事業構築から幸せ(ウェルビーイング)のための参加と協力を通して事業構築を考える ウェルビーイングへの5つの方法、キーワードの戦後史と現在-NPOと市民活動、営利と非営利の壁の変容、ムーブメントの起こし方の劇的変化	
7			ソーシャルビジネスとコミュニティビジネス 社会的背景(生活者との関わりで、企業の変化:進む企業の社会化)、SB/ CB実践事例、その先を見据えて、日本のSB・CB(SB白書から)	
8			小括2:アフター(ウィズ)コロナの社会デザインとしての新事業構築 ここまでの整理と討議からビル・ドレイトン:チェンジメイカーとしてのアショカを中心に	
9			新事業構築の実践のために 人口減少・少子超高齢社会にあって必要な発想の転換=逆転の発想、ブルーオーシャンとコレクティブ・インパクト、企業と社会課題との関係の変化、東郷フレームワークと価値創造プロセス	
10			「人新世」の社会デザインビジネス(新事業構築)とSDGs 再生力のある経済、ブルー・エコノミー、分散型エネルギー、再生都市化-エコポリス、サーキュラー・エコノミー、金融改革、ドーナツ経済学、グリーン転換、良き投資、幸福度評価、SDGsの展開とESG投資、Nature is Speaking自然は語る	

11		アクション～社会実験(社会実装)への誘い(いざない) 社会イノベーター公志園という試み(序論)	
12		小括3:21. 5正規の新事業構築 ここまでの整理と討議	
13		社会イノベーター公志園という試み1 社会イノベーターたちの実践1	
14		社会イノベーター公志園という試み2 社会イノベーターたちの実践2	
15		まとめに代えて～21. 5世紀の新事業構築 全体を振り返り討議でまとめつつ、受講者自身の今後の学びの課題につなげる	
期末試験			

使用テキスト	特になし。授業時に資料を配付することがある。
参考文献 参考URL	授業時に随時紹介する
備考	本科目は、授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、質疑・討論など、授業での積極的な参加を期待する。また、多様な社会人とのネットワーキングや情報交換も可能。NPO/NGO、ソーシャルビジネス、社会デザインの現場との関わりを希望する受講者の希望があれば、極力答える。